


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2024 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	長田 律	会員番号	0036773	
申請者の所属・職名	理化学研究所 リサーチアソシエイト			
出席会議名	12th Annual Meeting of the International Cytokine & Interferon Society Jointly with Korean Association of Immunologists International Meeting 2024.			
発表論文タイトル	Mesenteric adipose tissue derived-CD127+ ILC1 orchestrates the immune response during acute peritonitis			

実施結果:

この度は 2024 年度後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択していただき、誠にありがとうございます。私は 2024 年 10 月 20 日~23 日に韓国のソウルで行われた 12th Annual Meeting of the International Cytokine & Interferon Society Jointly with Korean Association of Immunologists International Meeting (Cytokines 2024) に参加いたしました。本学術集会は韓国免疫学会との共同開催で、免疫学や基礎医学に関するトピックについて、細胞内シグナルの研究から病態モデルマウスを使用した研究まで幅広く扱っており、様々な情報を得ることができました。

Cytokine2024 はシンポジウム、Lighting Talks、ポスター発表のセッションがあり、私はポスター発表に参加しました。我々は消化管穿孔による急性腹膜炎発症時の脂肪組織内免疫応答について、特に自然リンパ球に着目した研究に取り組んでおり、本学術集会では、腹膜炎を誘導したマウスの脂肪組織で増加した 1 型自然リンパ球が PD-L を発現し、 $\gamma\delta T$ 細胞の活性を抑制するというデータについて発表を行いました。臨床医の方からの質問もあり、消化管穿孔時に腹腔内洗浄後の脂肪組織はどのような動態を示すのか、といったコメントもいただきました。実際の臨床現場での処置と研究内容を照らし合わせる良い機会となりました。

4 日間に渡り行われたシンポジウムでは、幅広い分野の研究発表を聴くことができました。自然免疫系の記憶様応答である Trained immunity のシンポジウムでは、我々の研究内容とも関連づけられる知見が多く、興味深く拝聴しました。また、最終日には 2023 年のノーベル生理学・医学賞受賞者である Drew Weissman 教授の講演も聴くことができ、研究内容は勿論のこと、その理路整然とした明瞭なプレゼンテーションスキルは大変勉強になりました。

本学術集会で得られた最新の技術や知見を今後の研究活動に活かしていきたいと存じます。末筆となりますが、本 travel award 設立に御尽力頂いた岸本忠三先生、選考委員の先生、またご指導してくださっている大野博司先生および佐藤尚子先生に御礼申し上げます。